

- 「レクリエーションの指導法と技術」
- 「青年と現代社会」
- 「会議の持ち方」
- ② 実技 「室内ゲーム」「キャンドルサービス」
- 「歌唱」
- ③ 討議 「青年団体の現状と問題点」

5. 青年国内研修

(1) 趣旨

県内の勤労青年を国内の先進地に派遣し、教育、文化、産業等に関する調査研究、視察をとおして学習を行ない、地域の青年活動の中堅指導者の養成をはかる。

(2) 実施要項

- ① 実施主体 福島県教育委員会
- ② 派遣先・人員 派遣先………滋賀県
- 人員………青年学級・教室等活
計16名 動班 7名
青年団体活動班9名

③ 期日

	期 日	研 修 場 所
事前研修	8月6日～7日	耶麻郡猪苗代町 国立磐梯青年の家
現地、事前研究	9月3日～10日	滋賀県（長浜市、安土町 日野市、大津町 近江今津町）

④ 参加者の資格

下記要件を備えるもので、市町村教育委員会ならびに県教育庁教育事務所長から推せんをうけたもの。

- ア 県内に居住する18才～26才未満の未婚の勤労青年
- イ 青年会員、青年学級・教室生および青年グループ員にして、将来郷土にあつて研修の成果を積極的に生かしようと認められるもの
- ウ 地域の信望あつく、研究心の強い青年であること
- エ 健康状態が良好なもので、胸部および伝染性の疾患のないもの
- オ 過去において、国内研修に参加していないもの

⑤ 選考・通知

市町村教育委員会ならびに教育事務所長から推せんされた者の中から県教育長が選考し、研修生を決定する。その通知は、県教育長から教育事務所長ならびに市町村教育委員会教育長を通じて、本人に通知する。

⑥ 研修内容

- ア 国内研修の意義
- イ 福島県勢の概要、福島県の社会教育の現況
- ウ 研修現地の学習
- エ 研修主題の共通理解と各自研究テーマごとの発表による研究協議
- オ 現地視察・研修
- カ 研修内容の整理と研究発表

6. 地域振興青年指導者セミナー

(1) 趣旨

勤労青年が現代社会に適応し、県土発展の推進者となるため、地域におけるリーダーとしての基礎的学習をとおして、広い視野と判断力および実践力を身につけ、青年指導者の育成を目的とする。

(2) 実施主体 福島県・福島県教育委員会

(3) 期日、会場、参加者

- ① 期 日 昭和48年12月3日～5日（2泊3日）
- ② 会 場 耶麻郡猪苗代町五輪原 国立磐梯青年の家
- ③ 参加者 県内居住の18才～30才未満の勤労青年で
- ア 地域青年団体の役員および青年学級・教室・青年グループのリーダー
- イ 国内研修終了者
- ウ 県主催事業勤労青少年のつどいに参加した者 75名

④ 講師・助言者

- 福島民友新聞社編集局長 斎藤 英記
- 国立磐梯青年の家所長 浅川 淑彦
- 〃 専門職員
- 福島県教育庁社会教育課主幹 松本 久
- 福島県地域振興青年連盟会長 鈴木 賢一
- 福島県生活環境部青少年課主任主査 根本 宗晴
- 福島県教育庁社会教育課社会教育主事
- 〃 教育事務所社会教育主事

⑤ 研修内容・方法

- 研修主題 「地域社会に密着した青年活動をつるにはどうしたらよいか」
- ア 講義—マスコミと青年の心理について
- 現代社会と青年について
- 青年と余暇の活用について
- レクリエーション実技指導
- イ 報告・事例発表
- 国内研修生報告
- 全国青年学級生大会報告
- 福島県青年海外派遣団員報告
- 地域に密着した青年活動の事例発表
- ウ 分科会テーマ
- 「団体・グループの活動はどう生かされているか」
- 「諸学習活動は、どう生かされているか」
- エ 分科会は、事例発表の内容を問題提起として話し合いを深める。

7. 全国青年学級生大会への参加

(1) 趣旨

全国青年学級生の代表が一堂に会し、交歓および当面する諸問題について研究・討議を行い、全国青年学級、教室の振興に資する。

(2) 主催

- 国立大雪青年の家 全国青年学級振興協議会
- 北海道教育委員会

(3) 期日、会場、参加者